



沖ノ島と宗像大社と金製指輪



宗像大社がカラー千円銀貨に

記念切手に続き、記念貨幣も発行

先月の「ふるさと切手」に続き、地方自治法施行六十周年を記念した千円と五百円の貨幣二種類が造幣局より発行された。一般に先立ち当大社へ届けられた実物は、カラーコインと呼ばれる特殊な貨幣で、沖ノ島や本殿が美しく表現されており、日本の造幣技術の高さには目を見張るべきものであった。五百円硬貨はニッケル黄銅と白銅及び銅を組み合わせた構造で、今秋開館十周年を迎える九州国立博物館、太宰府天満宮の太鼓橋、福岡県花である梅の意匠。こちらは一六八万枚が全国の各金融機関で引換えが可能。

千円貨幣は純銀製で全てが宗像大社の意匠となっている。こちらは造幣局より限定十萬枚で抽選販売され、今月下旬より当選者に順次発送される。



平成ノ大造営

時満ちて 道ひらく



ニッポンに、エネルギーを。

出先

暑中御見舞い申し上げます

宗像大社名誉宮司 養父守氏逝去 享年八十五歳



養父守名誉宮司は六月二十五日息を引き取られ、同二十七日正午、宗像市赤間駅前善光会館宗像会場で、名誉宮司を慕う多くの方々が参列される中、奥様の養父峯子様を喪主に湿やかに葬儀が斎行された。享年八十五歳。

養父名誉宮司は福岡県八女市のご出身で、昭和十七年福岡県立八女中学に入学後、翌年に広島陸軍幼年学校に入学。そして同二十年八月六日、米軍によって投下された原子爆弾により被爆、九死に一生を得た。

終戦と同時に八女中学校に編入、福岡外事専門学校を経て、昭和二十六年に九州大学法学部に入学。卒業後は長野家庭裁判所諏訪支部に書記官として勤務され、この地で生涯の伴侶となる峯子夫人と出会い結婚、お二人の息子をもうけられている。

ところが原因不明の頭痛に悩まされるようになり、学生時代よりお世話を受けていた故久保宮司の導きで、昭和三十八年宗像大社へ奉職された。

昭和四十一年には三十六歳で禰宜に昇任され、「昭和の大造営」では久保宮司、葦津権宮司の下、復興課長として手腕を発揮され、本殿の解体修理、勅使館・齋館・祈願殿の新築、第二宮・第三宮の再興など復興事業に邁進された。



昭和六十一年、久保宮司の後任として宗像大社を牽引されていた葦津嘉之宮司が急逝、同十二月急遽宮司に就任された。

温厚・篤実な人柄で、表面に出ることを好まれず、いつも一歩退いた処から堅実な社務運営を心掛け、故葦津宮司が思い描かれた神域の整備を継承、辺津宮拝殿の屋根葺き替えや中津宮の本殿の解体修理に代表される「平成の御造営」、清明殿や神饌所の改修を成し遂げられた。

また高い教養と見識を生かされ、宗像大社の所蔵する古文書をまとめ、語句の注釈や大意を掲げかつ影印本を添えた「宗像大社文書」の発刊、神社界では神道政治

IDEX

暮らしに、地域に、社会にとっての「なくてはならない なにか」こそ、私たちの事業領域です。石油も、石油以外も、IDEX。

なくては
ならない
なにかを



株式会社 新出光 〒812-0036 福岡市博多区上呉服町1番10号 TEL: 092-291-4134

暑中御見舞い申し上げます



御勇退後、出光昭介名誉会長(左)を御案内する養父名誉宮司(右)

連盟中央本部の副会長、同福岡本部会長、福岡県神社庁副庁長、地域では宗像ロータリークラブ会長の要職を歴任された。

しかし平成九年難病にも指定されている重症筋無力症の病魔におかされ、十月に六十六歳で退任、その後は名誉宮司の称号を受けられるも、その間十五回にわたる手術を受け入院を繰り返しては超人的な生命力で乗り切ってきた。

その間、平成十八年一月より宗像大社の責任役員に就任いただき、現在第二次事業へと進行している「平成ノ大造営」にも指標を



しまも
島守りに
出でたる夫が
帰るべき

つま
夕べやすけく
波止に潮満つ

お示し頂いた。

ご遺族の談では本年の正月を境に気力、体力の衰えが激しく、さらに筋無力症も再発され、ついに永眠された。

戦後七十年の本年、戦争によって大きく人生が変わり、宗像大神の導きにより神職の道を歩まれ、宗像大社に捧げられたご生涯であった。

左記の歌は喪主の峯子夫人が詠まれた歌で、昭和五十八年の御題「島」の宮中歌会始において、応募総数約二万七千首の中から十首に選出されている。ツマ(夫)

をオットと読んだ小職に「それをオットと読んだら、歌が台無しだよ〇〇君」とにこやかに語られた名誉宮司の笑顔が今も頭に鮮明に焼きついている。

現在も我々宗像大社の神職が十日交代で勤務する沖ノ島。養父名誉宮司も在職中は何十回とされておられ、沖ノ島での勤務を終え、波穏やかな夕べの波止に立ち沖を眺め、夫の乗った船を待つ妻の心静かな喜びが詠まれています。

宗像大社名誉宮司養父守様の御冥福を謹んでお祈り申し上げます。

暑中御見舞い申し上げます

第39回

小倉百人一首かるた大会開催

六月六・七・二十一の三日間、第三十九回宗像大社小倉百人一首かるた大会(主催〓宗像大社、一般社団法人全日本かるた協会)が開催され、約五〇〇人にもものぼる参加者が当社に集い、朝から夕刻まで熱戦が繰り広げられた。

大会は、一日目に初心者・シニアの部、二日目にC・D級、三日目にA・B級と階級ごとに日を分けて開催され、参加した五〇〇名の選



ことができた。閉会式後には、選手らは互いに健闘を称えあい、大社を後にした。

手は、大神様に見守られながら御神前で日々の練習の成果を存分に発揮した。特にA・B級ではレベルの高い攻防が続き、勝ち負けだけでなく礼儀作法においても、上級者にふさわしい試合が行われた。今大会も昨年と同様参加者多数の為、会場は大変混雑したが、大会関係者、選手の協力により三日間とも滞ることなく終了することができた。

第39回 全国かるた競技宗像大会成績表

A級74名	優勝	鶴田 紗恵 (九州かるた協会)
B級69名	優勝	諸隈美紗稀 (九州かるた協会)
C級79名	優勝	高井 咲弥 (九州かるた協会) 中村 涼帆 (長崎県かるた協会)
D級153名	優勝	堤 亮太 (大宮さくら会) 野原 万莉 (五島高校・長崎県) 山中侑希帆 (五島高校・長崎県) 金澤 沙織 (札幌競技かるた会) 竹村 彩 (五島高校・長崎県)
中学生以上32名	優勝	瀧下 智也 (三池よきもの会・福岡県) 堺 和義 (若菜会・福岡県)
小学生33名	優勝	西田 日和 (なにはがた会・福岡県) 森 彩由美 (北九州かるた大会・福岡県)
シニア級12名	優勝	奥 米子 (行橋かるた会・福岡県)



私たちは生活者の立場で考え、顧客の立場で行動します。

私たちはユーザーの気持ちをも的確に捉え、
企業戦略から空間、個々の商品、サービスに至るトータルなステージで
「デザイン」の力を発揮し顧客の企業価値の創造のお手伝いします。



株式会社ジーエー・タップ

福岡市博多区中州5丁目1-22 松月堂ビル3F 〒810-0801
Tel 092-291-8801 Fax092-291-8805

<http://www.ga-tap.co.jp>

暑中御見舞い申し上げます

中津宮 祇園祭

められた。

祭典後には、大島小学

去る七月十五日、午後二時より中津宮の末社・須賀神社において祇園祭が斎行された。そしてこの神賑行事として大島地区山笠保存会役員を始め中津宮の氏子総出で山笠が奉納された。

当日は快晴・真夏の猛暑となり、祭典が近づくにつれ法被姿の島民が続々と参集、大島地区山笠保存会会長(宮本俊久氏)他関係者が玉串を捧げ祭典は滞り無く納

校児童により「大島心響太鼓」が奉納されると、それを合図に子供から大人まで島を上げて山笠が引かれ、大小五台の山笠が勇壮に島内を疾走。沿道では各家々から力水を掛けられ、更に勢いを得て山笠は勇み進み、子供たちも大声で掛け声をかけながら駆け回った。恒例の行程を巡行し終えた山笠は午後四時頃にはこども広場に納められると、一同で祝い唄を

歌い上げ、終始賑やかに熱気を帯びたまま幕を閉じた。



巫女神楽舞温習

七月八日〜十日迄の三日間、神社音楽協会より磯部恵子先生をお迎えし神楽舞の御指導をいただいた。現在巫女職は十四名が奉務しており、例年この時期に講習会を実施し研鑽に努めている。

磯部先生からは「神楽舞は神様に奉納する舞であり、神様に心を通わせる必要がある。その為には、指先から足先まで神経を集中させ気持ちを含めながら舞わなく

てはならない。」と舞に対する基本的な姿勢から御指導いただき、巫女もそれに応えるように真剣な表情で温習に取り組んでいた。

昨年より、恒例祭で奉奏する「浦安の舞」「豊栄の舞」だけでなく「悠久の舞」の習得にも力を入れ、最終日には本殿にて悠久舞を奉奏し、講習会を締めくくった。

「悠久の舞」の習得にも力を入れ、最終日には本殿にて悠久舞を奉奏し、講習会を締めくくった。



磯部先生は神社音楽協会講師として、住吉神社(福岡市)等で神楽舞をご指導されながら、神職として櫻川磯部

稲村神社(茨城県櫻川市)で御奉仕されている。

来年の講習会では更に成長した姿をご覧いただくため、今後も温習を重ねて更なる研鑽に励みたい。

宗像大社 御神菓調製

九州産の小麦を使用したサブレです。



御菓子處 石村萬盛堂
〒812-0028 福岡市博多区須崎町2-1
フリーダイヤル 0120-222-541

暑中御見舞い申し上げます

第一回 氏子評議委員会

六月十九日、本年度一回の氏子会評議員会が置鮎会長以下五十八名出席のもと当大社清明殿にて開催された。

議事では、七月三十一日の大祓式並夏越祭について

事務局より意義説明があり、

旧宗像郡内に配布する人形・

献米袋の取り纏めのご理解

ご協力の依頼がなされた。

また、氏子会研修旅行の件

についても審議並報告がな

された。

会議終了後には各評議員に担当地区の人

形・献米袋をお持ち帰り頂き、大祓式並夏

越祭へ向け、配布・取

り纏めに御尽力頂い

た。

人形配布作業等に

お力添えを頂いた皆

様方には、紙面を以

ちまして御礼のご挨拶

を申し上げます。



宗像市海開き

爽やかな青空の六月二十九日、宗像観光

協会・玄海ホテル旅館組合・神湊飲食店組

合主催の海開き神事が行われ、当大社神職

が宗像市神湊

海岸の砂浜に

出向し、海と

訪れる人々の

安全、宗像地

域の活性化を

祈念した。祭

典終了後には、

深浜海岸・江

口浜・勝浦海

岸を祓い清めた。

宗像の海水浴

場は玄海国定公

園に属する景観

地であり、夏休

みには多くの家

族連れが訪れ賑

わいを見せる。

ルールとマナー

を守り楽しい

思い出を作っ

ていただきたい。



時満ちて道ひらく

造営日記 ⑰

仮本殿 解体

平成二十五年九月より始まった辺津宮本殿及び拝殿の修復工事は、昨年十二月の遷座祭を以つて滞りなく終えることが出来た。その間、凡そ十四ヶ月に亘り御祭神がお鎮まりになられていた仮本殿をこの度解体した。



解体中の仮本殿



約2年振りに麗しく整えられた境内

(続)



301

いしただし



北九州市八幡西区大膳一丁目のおつき台の丘陵上に慰霊碑があることは記した。

巨大爆撃機B29を体当りで二機撃墜したことは、日本人に大きな感動と称讃を与えた。さて日本の戦闘機の中でも、機名が勇ましく圧倒されるような名である。屠龍(とりゅう)は龍をほふる、屠る、敵をやぶるという意で、龍はB17やB29の巨大爆撃機であろう。

屠龍はB29迎撃機として活躍している。第一戦に配属されたのは、昭和十七年であるが、大形爆撃機が出現する頃で、本土防空機戦に参加し活躍、特に胴体下部に三十七ミリ砲を搭載していた。これは陸軍の対戦車砲を改良したものである。

この三十七ミリ砲はB29にとって脅威であった。

しかし威力は大きいながらも発射ができず二十秒間隔の発射では、すぐに第二撃をかけるうちに敵機との距離が離れてしまうことになる。

野辺機も第一撃に失敗し編隊を組んだB29に体当りを敢行したのである。先述したよう日本国民にとってB29の爆撃に悩まされ、犠牲が重なるなかで、一度に二機を撃墜したことで国民はその行為に感動をした。宗像市の中村研一画伯も「北九州上空野辺軍曹機の体当たりB29機撃墜す」(油彩二五九cm×一八八cm)の大作を陸軍美術展、陸軍作戦記録画に残しているほどである。

この野辺軍機の快挙に軍歌もつくられた。「聖土に散る」で作詞は宮城正俊少尉、作曲は山口県小月出身の

林伊佐緒氏(一九一二〜一九九五)であり、林氏が歌った。私が少年時代の戦後だが「ダンスパーティーの夜」や「真室川ブギ」などを聞いたことを覚えている。氏は紅白歌合戦には十二回出場をしており、人気歌手と共に作曲家としても数々のヒット曲を出している。

歌詞は第一番から七番まであり、まず第一番は、
一、東亜の空に風暴れて
妖雲八重にはらむとき
醜鷲忽如八十機
群がり寄せぬ北九州
いざ邀撃のとき来る

※北九州上空に飛来してきた醜鷲(B29)である。

二、略
三、高度はるか七千の、空に群がる敵梯団

必殺の意気突つ込めば
たちまち一機傾きて
梯列みだし墜ちてゆく

四、略

五、決死の無線高らかに、
身機もろとも当たたらんと、
訣別一語基地に寄せ
従容握る操縦桿

野辺機は征くよまつしぐら

六、飛電の如き早業よ

雲つんざくと見しままに
黒煙天に沖するは
醜鷲二機が火を噴きて

微塵と散りし名残なり

七、ああ壮なれや体当り

鵬遼一挙身を博し
雲染む屍髪と

遺烈に映ゆる感状の
誉は永久に薫るらん

※300号「両勇士の戦記」に十九年八月十日となっていますが二十日の誤りです。



第六八八回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子

関門のちんぴらせんべい味深きその文字みつつかリカリと食ぶ煎餅を食べながら焼印の字を楽しむ作者か。三・四句へ焼印の佳き文字みつつか。

福津市 若木台 野間 精一

室見川をのぼる白魚のごとく雲流れゆく
言葉を補ってへ春浅き淡青のそらを雲ながる室見川のぼる白魚のごとくとしてみた。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

燕飛ぶ風の海原船すすみ島へ遠足楽しき子たち
魅力的な言葉が多いが整理してへ遠足の子ら乗せ船は島をさす風を飛びぬる燕とともに。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

白内障の手術を終へて見つめるつ今更らわれの顔におどろく
視力が戻った作者。鏡で見る顔が記憶と違うのだ。三句へ鏡見るへ結句へ驚きに。

宗像市 多禮 早川 祥三

遠ざかる紋白蝶に色褪せた葉の欠片記憶の古道
詩的な言葉が並ぶが状況がよく分からない、色褪せた葉のような記憶にて紋白蝶の飛び居し古道としてみた。

福津市 若木台 山崎 公俊

ふかみどりあさみどりなほふかみどり風もみどりの斎庭ぞ香る
みどりの繰り返しが韻律を作っている。下句へ風もみどりに匂へる斎庭と体言止めでも良い。

宗像市 日の里 大和美由紀

夏帽を被りて夫は出かけたなり五ヶ月ぶりのグラントゴルフ
体調が回復されたご主人、安堵感がある。初句が季節も表し効いているが(夏帽子)に。

宗像市 田久 巻 桔梗

一億を確保するぞと政府言ふ、その一人になつてやりたいけれど
面白い歌だが、時事詠は時間が経つと意味が分かりにくくなる。人口や五十年後が必要だろう。

宗像市 池田 森 龍子

通夜あとの襖障子を除きたる真夜をロボット掃除機動く
通夜の後のロボット掃除機が寂しさを強調する、良い歌。通夜で時間は分るので三句は座敷にしては。

北九州市 門司区 北野カズミ

おそひくる睡魔しつこくわが頭カクンと折れてホッと目醒めぬ
睡魔と聞い覚める一瞬を上手く切り取った歌。何をしている時なのかも知りたいと思う。

宗像市 大島 杉田 禮子

朝焼けに誘われ浜に降り行けば裾模様のごとき対岸の景
全体の景を薄紅色の着物と見た作者、裾模様の喩が効果美しい。四句へ裾模様なすに。

◆ 選者詠

新聞を取ると開けたるドアのそと折り目正しきあさがほの紺
さががへりせし子が去りて赤き柄のビニール傘が傘立てに立つ

第六二一回

俳句作品集

宗像市 多禮 早川 祥三
紫の誇りちりばめ花樽

編集後記

先日、太刀洗平和記念館に行きました。

戦後七十年、いま自分たちが平穩無事に過すことが出来るのは...との想いで、戦争について調べたり、考えたりする事が増えました。特攻の遺書は、涙がこみ上げ、やはり直視することが出来ませんでした。生涯経験することのないであろう、今から死に行くという狂気の世界。確かに七十年前には現実として存在した時代▼憲法改正：自民党支持率低下、安倍政権へのパッシングが尚続いています。すが、平成二十五年十二月の「...不戦の誓いを致しました。」との靖国参拝後の言葉を思い出しました▼今ある平和は：この季節、この年に、知り考える事は大切なことではないでしょうか。八月は知覧に行こうかと思っております。(公範)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八二一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一一三二(代)
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円

8月祭事暦

1・15日	月次祭
午前10時～	高宮祭
	第二宮・第三宮祭
	宗像護国神社祭(1日)
午前11時～	総社祭
	浦安舞奉奏(1日)
	豊栄舞奉奏(15日)
7日	午後8時～
	中津宮七夕祭
	於＝大島・中津宮
15日	午後7時～
	宗像護国神社
	戦没者慰霊祭
	於＝宗像護国神社